

平成22年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1471901731	事業の開始年月日	平成15年4月1日
		指定年月日	平成15年4月1日
法人名	社会福祉法人 宗得会		
事業所名	グループホームつばき		
所在地	(〒238-0311) 横須賀市太田和2-10-3		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		工外数	2工外
自己評価作成日	平成22年5月1日	評価結果 市町村受理日	平成22年6月8日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>「MMA」というケア方針 見逃さない（M） 見捨てない（M） あきらめない（A） の実践を職員一丸となり取り組んでいる。</p>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成23年2月24日	評価機関 評価決定日	平成23年5月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所概要】 この事業所はJR逗子駅からバスで30分、下車後10分程度の静かな住宅地の中に立地している。目の前に同法人の特別養護老人ホームがあり、イベントや緊急時等、様々な連携が行われている。広い敷地に2ユニットが平屋で並ぶ贅沢な造りで、生活環境は良好である。リビングは天井が高く、木の温もりがする暖かい雰囲気、利用者の習字やちぎり絵の作品が飾られている。</p> <p>【資格取得支援】 ホーム長自らが講師となり、介護福祉士、介護支援専門員への資格試験に向け、それぞれ月に2回ずつ、試験直前には3回ずつ、勉強会を夜間に実施している。法人として職員育成をバックアップし、モチベーションアップと業務に対する自信がつけ、サービスの質の向上に貢献している。また、職員の離職率が低い。</p> <p>【認知症に対する地域への動きかけ】 法人本部とも連携して、認知症サポーター養成研修を実施している。若い世代に少しでも興味を持ってもらいたいとの思いから講師を引き受けている。実際には、高齢者の方々の参加が多いが、今後も地道に継続する予定でいる。</p> <p>【充実した設備とゆったりと過ごせる居住空間】 廊下は十分な広さがあり、歩行訓練の場にもなっている。ヒノキの浴槽を備えた浴室も広々として気持ちが和む。広い中庭は、ウッドデッキになっており、花を眺めながら日光浴ができる。敬老会や時にはお茶会などを楽しむ場所としても活用されている。</p> <p>【職員自らが作るケア目標】 年度ごとにホームとしての事業計画の中で、「ケア理念」「ケア方針」「ケア目標」を職員が主体となって作成する。このことで、理念を深く意識することになり、職員同士のコミュニケーション推進にもつながっている。職員同士の声掛けも多い事が利用者情報の共有に役立っている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームつばき
ユニット名	ユニットさざんか

アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域におけるグループホームの存在意義や入居者およびその家族の思いを踏まえた理念を、事業所内研修や施設内研修で確認しながら実践している。	設立当初は法人理念だけだったが、事業所独自の理念「見逃さない、見捨てない、諦めない」を作った。また、ユニットごとに毎年ケア目標を職員自らが作り、実践に努めている。毎年、横須賀地区高齢者福祉シンポジウムや、かながわ高齢者福祉研究大会で、外に向け発表を行うことで内部的にも理念や目標への意思統一を図っている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家族会や事業所会議を通じてグループホームのケアを理解して頂いている。また、日常生活においても、散歩や買い物、地域行事などを通じて交流を深めている。	法人全体で認知症についての理解を深める研修を行っている。また、ホーム長は認知症サポーター研修の講師を務め、地域に向けて情報の発信をしている。毎年、中学生の体験学習を3~4校受け入れている。事業所主催の敬老会では地域の方にも設営の段階から参加してもらっている。行事やちぎり絵、習字の指導でボランティアの協力を仰いでいる。	地域に向けて認知症の理解を促す活動にますます取り組んで頂きたい。法人本部のみならず近隣グループホームとも連携し、若い世代に対しても情報を発信していくことを今後も期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に出向き研修等の開催により、認知症ケアの啓蒙等に貢献している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族や地域の代表者等に参加して頂き、施設の状況報告への意見や参加者からの地域情報など、施設ケアの参考にさせて頂いている。	昨年度まで横須賀市の近隣グループホーム合同の運営推進会議を行っていた。職員、家族とも他のホームの状況も知ることができ、サービスの向上につなげる良い機会となっていたが、今年度から廃止となり、事業所単独で7月から2か月に1度開催している。体験学習受け入れについて、参加者から良い取り組みとの評価をされた。	

5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所説明会や実施指導により、意見交換や指導を仰いでいる。	横須賀市の監査が2年に1回行われている。また、市の担当者は運営推進会議に参加し、事業所の実情を把握している。事業所の課題、困っていることを相談したり、空き情報のやり取りや制度の説明に来所されたりすることもある。市に対して家族からの質問を代理で行い、行政との橋渡しをすることもある。	
---	---	---	-------------------------------	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	部内全体研修などで学習しており、身体拘束について十分理解していると思われる。	法人内部の身体拘束排除・高齢者虐待防止委員会で研修を行い、人権尊重の認識の共有を図っている。理念の「こころ豊かに生活できるよう、日々の生活を支援する」の実現を目指し日々のケアに取り組んでいる。日中は施錠していない。1部屋だけ安全確保のためにベランダに面した障子にセンサーを取り付けている方がいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学習しており、十分理解していると思われる。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学習しており、業務上役立てている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり、解約する際には、十分な説明を行い、不安や疑問が生じていないかを確認しながら、理解や納得を頂いている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や事業所会議等で話し合う機会を設け、また普段の来所時でも気軽に話し合える雰囲気を作っている。意見箱を設置している。	家族会や敬老会なども催し、開催時には、気軽に意見を言える雰囲気づくりを心掛けている。利用者の誕生日には家族や兄弟を招待し、多くの方から意見をいただいている。電話連絡でも、個別の生活状況を伝え要望を聞いている。センター方式の各種シートを活用した意向の把握にも随時、努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体研修会で機会を設けているが、日ごろからいつでも管理者と話せる機会があり、意見や提案もできる環境にある。	年1回の個人面談をはじめ、全体会議、勉強会、ユニット会議などの機会に話し合い、職員からの意見や提案を運営に反映させている。具体的には職員からの提案により、各ユニットの毎年の目標を全員で話し合って作るようになった。管理者は、職員の誕生月に昼食会を開催し、気軽な雰囲気の中で意見を言いやすい状況を作っている。パート職員を正社員にする際の勤務状況の確認や推薦の有無を職員に聞くこともある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、施設運営に理解を示し、労働環境の向上に努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、施設職員の研修等を積極的に推し進め、職員のキャリアアップに協力的である。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	年間を通じて、内部・外部研修や会議等を積極的に進め、施設職員及び外部関係者が共に向上できるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前に、本人との面接機会を持ち、話を伺う機会を確保している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人との面接の時間をとり、話を聴く機会をつくっている。本人・家族の要望や悩みごとを傾聴している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話の中から必要としているサービスや支援を見極めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に料理や掃除、洗濯等の家事を行ったり、散歩や買い物などで信頼関係を築いてきている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にもお願いできること（受診・居室の片づけ・衣類の入れ替えなど）を手伝って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>いつでも面会できるようにしており、家族や友人が来たり、家族同伴でみかん狩りなどにも出かけたりしている。</p>	<p>家族と一緒になじみの店に食事に行ったり、受診に出かけたりする際に、外出の準備を支援している。また、友人や親戚の方の訪問時には居心地良い時間が過ごせるよう、配慮している。近くの美容院やスーパーへの買い物を希望する方には、職員も同行している。美容院に行けなくなった人は美容師に訪問してもらい、関係継続を支援している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者同士が自然に寛げるように関係の把握と、孤立することのないように声掛けし、お互い関わり合い、支え合いができるよう努めている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>他施設に移動した場合は面会に行ったり、亡くなられた場合は行事等でご遺族を招待したり、できる限りその後の関係も保っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一部センター方式を活用し、本人に確認するとともに家族にも話を伺っている。意思表示の難しい方にはその日常生活からその人に望ましいと思われる対応を心掛けている。	利用者の生活状況、思いや暮らし方の要望はセンター方式で細かく把握するよう心掛けている。また、定期的にシートを見直し、情報を更新している。コミュニケーションの深め方についての勉強会を開催することで、意向把握の方法を様々な角度から学んでいる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一部センター方式を活用し、本人および家族から聞き取りを行って経過の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の毎日の生活の中で確認しながら、心身および人間関係など総合的に把握するように努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者、担当者、本人、家族等と話し合い、介護計画を作成し、定期的に評価している。	カンファレンス会議で毎月1回モニタリングし、計画作成者と担当職員が中心となり、本人や家族とも話し合い、同意を得たうえで新しい介護計画を作成している。通常6ヶ月ごとに評価を実施している。毎日の状態をこまめにノートに記入し、職員同士の引き継ぎや連絡を密にすることで、少しの変化も見逃さないよう話し合っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援記録・医療情報ノート・ケアプラン実施記録などの個別記録の記入により情報共有を計りながら、実践や見直しにつなげる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	経済的な理由もあり法人内部の事業所（特養）へ移動された方もいる。 オムツなど市の支給など申請している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方のボランティアが書道・ちぎり絵・お話等、月に何度か来て頂いている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・精神科・眼科・歯科の往診を受け、また家族付き添いでかかりつけ医の病院を受診される方もいる。	入居前からのかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関で受診する方の多くは、内科、歯科、精神科、眼科の往診を受けている。また、非常勤の看護師が常駐しており（10:00～13:00）日常の健康管理及び看護の支援を受けられるため、利用者や家族からの医療面への安心と信頼に繋がっている。また、職員にも大変安心感を与えている。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員とは業務日誌・介護記録・電話などにより24時間相談対応の体制をつくっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	この1年入院者が出ていないが、入院した場合は職員が頻りに面会し、病院関係者からの情報を得ながら、退院への早期対応アプローチを心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>この1年このかわりはないが、1年に1回、少しずつ終末期の事を考えて頂けるように書面を渡し、家族と本人の話し合いをもってもらっている。</p>	<p>ADL が著しく低下した時や、重要事項説明書の変更についての説明時など様々な機会に看取りの指針について家族に説明している。往診医や看護師との協力体制が整っている。職員は研修にも参加し、研鑽を積んでいる。高齢化が進んでおり、家族にはいざというときには協力を要請している。看取りは家族と医師、ホームが協力しながら対応していく方針である。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時や事故発生時の対応マニュアルがある。</p> <p>応急手当の訓練は不規則である。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>事業所の研修で定期的に訓練を行っている。</p> <p>法人と地域との協定書はあるが、グループホームと地域との正式な協力体制はできていない。</p>	<p>消防署より、小田和町内会と「火災震災等における援助協定」を締結するように要請があり、事業所と地域との防災協定も近く結ばれる予定である。また、水、食料などの備蓄は外の倉庫に整っている。道路を挟んで同法人の特養があるので、夜間でも災害時にはそちらから3名の応援が駆けつけるようになっている。施設の見取り図も渡して緊急時に備えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応を徹底し、記録等はファイルに閉じて管理している。	折にふれ、人格の尊重やプライバシーの確保に関する研修を行い、ホーム長からも都度注意を与えている。「当たり前のことを当たり前」すれば人格尊重もプライバシー確保もできるとの基本的な考えのもと普段のケアに取り組んでいる。 親しさの中にも何気なく「ありがとうございます」「お願いできますか」などの声掛けが頻繁に見られた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度本人に確認したり、説明を行ったり、自分で選択したり決められるよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にし、その都度確認しながら、本人の希望に沿うよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の起床時・外出時・行事等では身だしなみやおしゃれができるように支援している。また出張美容を利用している方が多い。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はほとんどの方が楽しみにされていて、一緒に作ったり、食事したり、片付けを手伝ってくださる方もいる。	職員が利用者の希望を聞きながら献立を作成し、利用者も一緒に食材の買出しに出掛けている。配膳や後片付けを行う方もいる。誕生日会には、家族を呼んで一緒にお祝いしている。また、好みの食事支援として、季節のものや利用者の出身地の名物などを取り寄せて皆で食事を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態や量を一人一人に合わせたものを出すようにしている。アルコール類を好まれる方には行事等で出している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食事には口腔ケアを行っている。 義歯の清潔管理に努めている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して時間を見ながらトイレに誘導し、本人からも職員に気兼ねなくトイレに行きたいと言える雰囲気での支援している。	職員は排泄チェック表からパターンを掴み、タイミングをみて声掛けや誘導をし、自立に向けた支援をしている。誘導のときや失敗したときも、羞恥心に十分配慮するよう徹底し、研修も重ねている。なるべく体を動かすことで自然排泄を促しているが、高齢化が進んでおり、体を動かす機会が減っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩、腹部マッサージ等に取り組み、また線維質の多い野菜・牛乳・ヨーグルト・オリゴ糖・寒天・果物・海藻等の摂取にも努めている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	できるだけ希望どおりに入浴できるように支援している。しかし毎日入浴したい方が入れない日は温タオルで清拭する等対応している。	基本的に、入浴は週2～3回となっているが、2ユニットとも毎日の入浴希望にも柔軟に対応している。車椅子の方もできるだけ浴槽に浸かってもらうよう支援している。同性介助の希望にも対応している。浴室は介助に十分な広さが確保されていて、浴槽はひのき風呂で、入浴設備、対応が充実している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	自室のベッドでいつも休めるよ うになっており布団干し・エア コンや湯たんぽ等も活用し、安 眠につながるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について理 解しており、服薬の支援と症状の変 化の確認に努めている	一人一人の薬の目的・用法・用 量を薬表に記名し、職員が十分 理解した上で服薬支援している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生活 歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援を している	買い物・散歩・慰問見学・日光 浴・歌・手芸など提供して支援 している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう支 援に努めている。また、普段は行 けないような場所でも、本人の希 望を把握し、家族や地域の人々と 協力しながら出かけられるよう に支援している	週2回の買い物や散歩・家族との 外出で行事を楽しんで頂いてい る。	高齢化が進んでおり、外出が難 しくなってきたが、車椅子の方 でも外気浴だけでもするように している。暖かい季節には、中 庭で日光浴をするなどしている。 車でミカン狩りやバーベキュー、 花見に皆で出掛け、外出の機 会を確保するようにしている。	今後ますますの高齢化も視野 に入れ、可能な限りの外出支 援を望みたい。買い物や散歩 だけでなく、気分転換、季節を 感じられるような外気浴だけ でも続けることを期待したい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している	自分で管理できる方には少額 を所持してもらい、外出時には 必要な金額を渡している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が家族に電話されることはほとんどないが、家族から電話がきた場合は職員が間に入って本人が会話できるよう支援している。また毎月お便りを出している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	閑静な住宅地であって落ち着いて過ごせる環境にある。建物全体が広く作られているため圧迫感もなく、居室もサッシと障子の二重になっており、生活環境は良好と思われる。	リビングは天井が高く、木の温もりがする暖かい雰囲気、利用者の習字やちぎり絵の作品が飾られている。ゆったりした玄関や廊下には、テーブルや椅子が置かれ、寛げる空間になっている。加湿器や空気清浄機を設置し、乾燥や臭いに配慮している。中庭には、ユニット名のさざんかが植えられていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下にソファや椅子があり、一人になったり、気の合う仲間と寛げるようになっている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に置くものは自由で、本人・家族でレイアウトされて使い慣れた物品を配置されている方もいる。	ベランダに面した窓は障子になっていて、柔らかな日差しが入ってくる。和室も3部屋あるが、現在はベッドを入れたりし、身体状況の変化に対応している。居室はクローゼットと洗面台が備え付けられていて、暮らしやすいよう配慮されている。自宅で使い慣れたタンスや鏡台、テレビ、仏壇を持ち込み、居心地良く過ごせる部屋になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は広く車イスも使用でき、手すりも設置されているため歩行に不安定な方も自力歩行ができる。各部屋には表札を設置・トイレ・浴室にもわかるように表示されている。		

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1471901734	事業の開始年月日	平成15年4月1日
		指定年月日	平成15年4月1日
法人名	社会福祉法人 宗得会		
事業所名	グループホームつばき		
所在地	(〒238-0311) 横須賀市太田和2 - 1 0 - 3		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		工外数	2工外
自己評価作成日	平成22年5月1日	評価結果 市町村受理日	平成22年6月8日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

1. 面会や行事、一口メモ、電話等を通じての家族との連携
2. 一人一人の生活のペースに合わせた支援
3. できることはできるだけ本人にさせていただき、自律感を感じて頂く
4. 散歩、日光浴、体操などの健康増進と楽しい食事である
5. 職員が資格取得に向けて勉強会や研修会に積極的に参加している
6. 職員の離職率が低い

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名			
所在地			
訪問調査日		評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームつばき
ユニット名	ユニットつばき

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域におけるグループホームの存在意義や入居者およびその家族の思いを踏まえた理念を、事業所内研修や施設内掲示で確認しながら実践している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家族会や事業所会議を通じてグループホームのケアを理解して頂いている。また日常生活においても散歩や買い物、地域行事などを通じて交流を深めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所会議や高齢者シンポジウムにおいて取組みの発表を行った。また、民生委員の勉強会においても職員が出向いている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族や地域の代表者等に参加して頂き、施設の状況報告への意見や参加者からの地域情報など施設ケアの参考にさせて頂いている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所説明会や実施指導等により、意見交換や指導を仰いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	部内研修などで学習しており、身体拘束について十分理解しておりケアに取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス等で確認しながら防止に努め、部内研修でも学習している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	部内研修で学習しており、業務上役立てている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり、解約する際には十分な説明を行い、不安や疑問が生じていないかを確認しながら理解や納得を得ている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や事業所会議等で話し合う機会を設け、また普段の来所時でも気軽に話し合える雰囲気を作っている。 意見箱を設置している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体研修会で機会を設けているが、日頃からいつでも管理者と話せる機会があり、意見や提案もできる環境にある。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は施設運営に理解を示し、労働環境の向上に努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は施設職員の研修や勉強会を積極的に推し進め、職員のキャリアアップに協力的である。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修への参加や、グループホーム連絡協議会の役員会に参加し、交流の機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前に本人と面接の機会を持ち、話を伺う機会を確保している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至る前に本人との面接を持ち話を聞く機会をつくり、本人や家族の要望や悩み事を傾聴する。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話し合いのなかから必要としているサービスや支援を見極める。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に料理や掃除洗濯等の家事をやったり、お話や散歩、買い物などを通して両者の信頼関係を構築している。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にもお願いできることはしてもらい、散歩や受診、餅つき等の行事への参加等、手伝ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会できるようにしており、家族や友人が来たり、外出も家族同伴で自由である。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人一人を理解し、お互いの関係を把握し、また孤立せずにお互いが支え合えるような支援に努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移動した場合は面会に行ったり、亡くなられた場合、その後も行事への招待を家族へ行い、できる限り相談や支援を続けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式の活用や本人・家族へ意向を確認している。意志表示の難しい方には、日常生活からその人に望ましいと思われる対応を心がけている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用や、本人・家族へ聞き取りを行い、サービスの経過の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の日常の生活の中で確認しながら心身及び総合的に現状を把握するよう努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・計画作成者を中心に皆で話し合い、取り組んでいる。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援・経過記録の他、医療ノートを用いて個別記録に記入し、職員全員で実践し、介護計画の見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	重度化した為家族の意向で法人内部の事業所（特養）へ移動された方もいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアによる書道・ちぎり絵など月に数回来所され行われている。またお祭りにも参加し皆で楽しんでいる。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族協力のもと適切な医療を受診できるよう支援している。 往診には内科・歯科・眼科・精神科を受け事業者との関係を築いている。		
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療ノートや電話対応により入居者の相談を24時間できる体制をもっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合には、家族と協力しながら頻回に面会し病院側からの情報を得ている。また退院へのアプローチも行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人・家族・かかりつけ医との繰り返しの話し合いや、終末期意向アンケートを用いて全員で方針を共有している。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルがあり、その都度研修も行っている。</p>		
35	13	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>法人全体やグループホーム内研修において訓練を行っている。 グループホームと地域との正式な協力体制はできていない。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格やプライバシーを尊重した言葉かけや対応をしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度確認したり説明をして本人が決められる様にしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にしながら、都度確認をしたりして、本人の希望に沿うよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・外出時・行事等では衣服の選択や化粧などの支援を行っている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	必要に応じてメニューを変更したり、誕生会等では事前に好みを聞きメニューを考えている。支度や片付けもできる範囲で一緒に行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態や量は一人一人に合わせている。 腎疾患の方にも対応してる。また状況に合わせて捕食等も用意している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3食毎の口腔ケアを行い必要に応じて職員の補助を行っている。また歯科往診を受けている方もいる。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表の活用を続けている。時間をみながらそれとなく声掛けを行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩、食事や乳飲料・オリゴ糖・イーザーファイバーなど活用している。排泄時ウォッシュレットを使ったり腹部マッサージもしている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	できるだけ希望に沿うように入浴できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時は居室で休め、リネン交換・空調機・湯たんぽの使用等、安眠できるようにしている。ベッドに限らずソファでも休んで頂いている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の目的や副作用、量等をラックに記してあり、また各薬の担当を決め職員が十分理解し支援している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物、ドライブ、散歩や歌、ボランティアの先生による習字やちぎり絵など行っている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴、買い物、家族との外出や施設行事での外出・外食等で楽しんで頂いている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は個人で金銭管理をしている方はいない。買い物の際も職員が変わりに支払をしている事が多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月のお便りでは代筆という形で書いたりもするが、電話をされる方は現在はいない。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い建物・土地と静かな住宅地ということで生活環境は良いと思われる。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下のソファ、玄関先のベンチ、リビングのこたつ・ソファなどでくつろげるようになっている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に置くものは自由で本人や家族でレイアウトされたり、なじみの物を置かれている方もいる。（花や仏壇など）		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は広く車イスも使用でき、手すりや部屋毎の表札、トイレや風呂の表示もされている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームつばき

作成日 23年5月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	2	地域に向けての認知症の理解を促す活動にますます取り組んで頂きたい。法人本部のみならず近隣グループホームとも連携し、若い世代に対しても情報を発信していくことを今後も期待したい。	地域全体での認知症高齢者へ偏見や無理などを解消し、地域全体で認知症高齢者を支援できるようにしていきたい。	認知症サポーター養成講座を定期的開催しながら、地域支援体制を構築していきたい。	24ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。